

「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」第一回 を開催しました

「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」が発足し、第一回の
会合を開催しました

- 連絡会議には79の委員会、分科会等が参加
- 第一回連絡会議の概要
 - 日時:2021年9月16日(木) 13:00～15:00
 - 会場:オンライン
 - 出席者:79の委員会、分科会等の代表75名、運営WGのメンバーなど12名
 - 議題
 - 連絡会議の趣旨説明
 - 気候変動に関する最新の科学的知見(IPCC第6次評価報告書第1作業部会報告について)
 - 委員会、分科会等におけるカーボンニュートラルに関する活動の状況と関心事項の紹介
 - 経済学委員会持続的発展のための制度設計分科会
 - 食料科学委員会水産学分科会
 - 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会
 - 環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会
 - 活動と関心事項の俯瞰
 - 今後の連絡会議のあり方などについての意見交換

連絡会議

当面の活動の方向性(案)

- カーボンニュートラル(CN)に関心のある委員会、分科会等の代表からなる連絡会議
 - CNについて、中長期的な視角をもって、学術の諸領域が連携・協働し、総合的、俯瞰的な検討を進めるためのハブ、プラットフォームに
- 委員会、分科会等間の交流と連携の構築
 - 相互の活動の見える化で、共通の審議課題の発見、連携による学術フォーラムの開催などを促す(=自発的な横断的連携)
 - その基盤として、委員会、分科会等の代表者のmailing listをつくってはどうか
- 連携を促進できる/促進が必要なテーマを連絡会議で設定して共同で審議を進めてみてはどうか
- CNに関するHPの立ち上げ
- 学協会との連携など学術会議内の取り組みをこえた連携をどのように進めるか

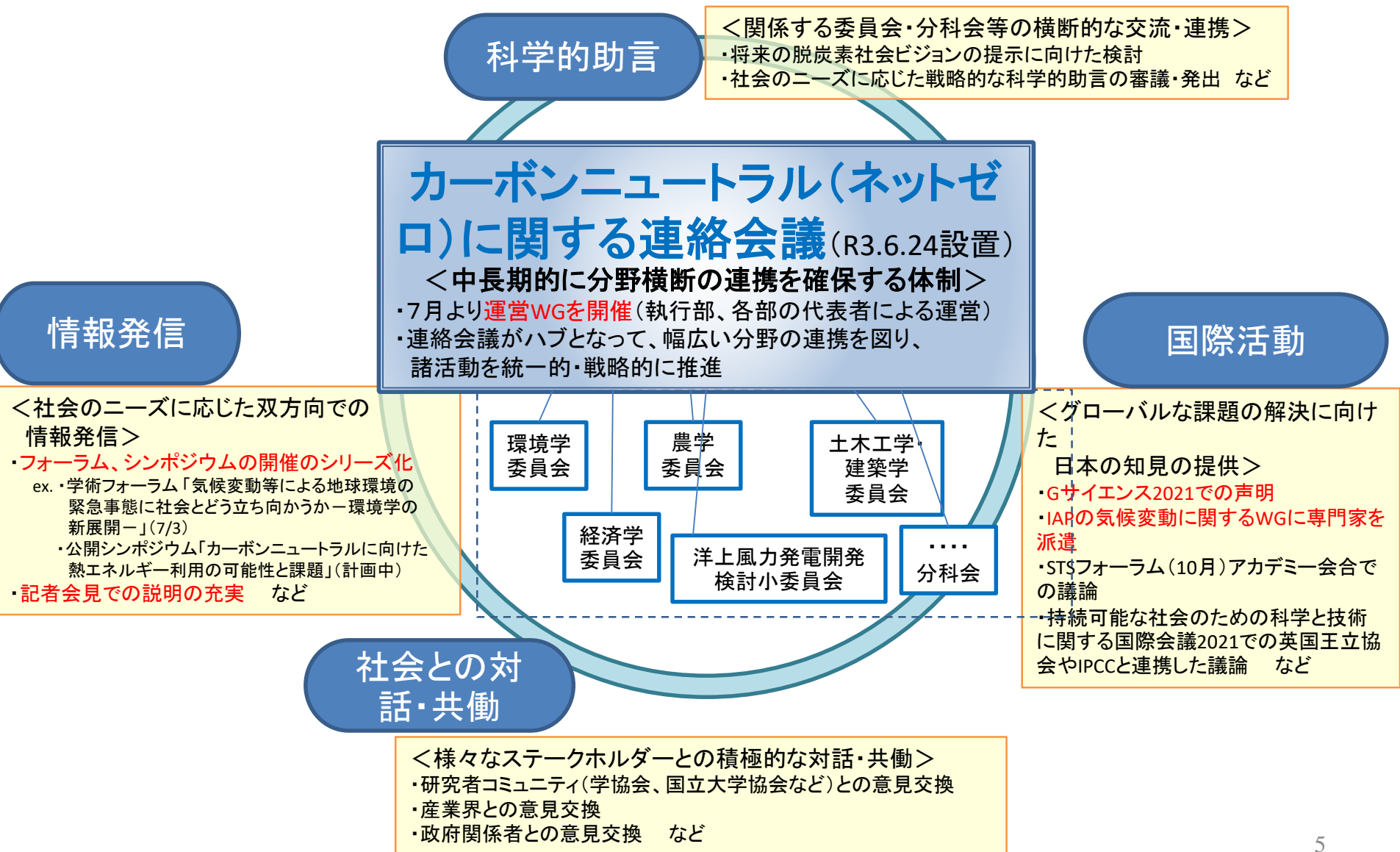
連絡会議で出た意見の例

- **連絡会議で連携して審議を進めてはどうかというテーマの例**
 - － カーボンニュートラルの社会システムの制度設計
 - － カーボンニュートラル実現のための政策、制度の設計
 - － 消費者の環境意識と環境保全行動
 - － 洋上風力発電と漁業
 - － カーボンニュートラルのための技術評価
 - － 他のイシューとの相乗効果とトレードオフ
 - － 教育のあり方
 - － 企業のスムーズな移行 など
- **基本的な科学的知見の共有・発信**
 - － なぜカーボンニュートラルが必要かなど。専門家、社会一般への発信

連絡会議

国際的な連携・発信

- 国際学術団体を通じた/他国アカデミーとの国際的連携、国際的発信
 - Gサイエンス2021:「ネットゼロと気候変動影響に備えた未来」についてG7各国政府に対して提言
 - <http://www.scj.go.jp/ja/int/g8/index.html>
 - インターアカデミーパートナーシップ^o(IAP):気候変動×生物多様性のWGに参加、提言をまとめる
 - STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム)2021 アカデミープレジデント会議(2021年10月4日予定):
"The effects of climate change on the ocean and the polar regions"
 - 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2021(2022年1月31日、2月1日を予定):カーボンニュートラル(ネットゼロ)をテーマとする予定



「カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議」 設置の背景と趣旨

2021年6月24日記者会見資料

カーボンニュートラルの実現をめざす日本、世界の動き

- 日本:「2050年にカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現をめざす」。2050年目標と統合的で、野心的な目標として、「2013年度から46%削減することを目指し...さらに50%の高みに向けて、挑戦を続け」る
- 2021 G7サミット(2021年6月):「世界の平均気温の上昇を1.5度までに抑える」「遅くとも2050年までのカーボンニュートラル(ネットゼロ)の実現」が目標として共有、長期目標と統合的な2030年目標の設定と対策の実施に合意

2050年カーボンニュートラルの実現には、エネルギー、建築物、交通を含むインフラ、産業などにおいて急速で広範囲なかつてない規模の社会の変革・移行が必要

- **最新の科学**に基づき、**技術の革新と普及**を促し、**広範な政策導入**、**投資の拡大**が求められる

中長期的な視角をもって、学術の諸領域が連携・協働し、総合的、俯瞰的な検討が必要となる課題が少なくない。学術が果たす役割は大きい

2021年Gサイエンス学術会議(2021年3月)でも「**ネットゼロと気候変動影響に備えた未来**」についてG7各国政府に対して提言